

むかし。虫たちが集まって遊んでいたとき、いっぴきの虫が、お腹が痛いといいたしました。みんなは、急いでお医者を呼びに行くことにしました。足の速い者に行ってもらうことになって、だれがよかろうと相談しました。すると、一番年上の虫がいました。

「むかでは足がいっぱいあるから、きっと速いぞ」

「そうだ、そうだ」

ということで、むかだが、お医者をもかえに行くことになりました。

みんなは、病気の虫のまわりに集まって、「しっかりしろ」といいながら、あれこれ、世話をしていました。けれども、いつまで待ってもお医者はありません。待っても待ってもお医者も来ないし、むかでも帰ってこないの、二、三匹が玄関^{げんかん}まで行ってみました。すると、むかだが、汗^{あせ}をたらたら流して、一生懸命にわらじをぬいでいました。

「お医者はまだかい」と、虫たちがたずねると、むかではいいました。

「おら、まだわらじもぜんぶはいていないのに、おいしやなんて、どうして来るものか」
虫たちが、びっくりしてよく見ると、むかでは、わらじをぬいでいるのではなくて、はいて
いるところでした。

むかでは、足がいっぱいあるから、速いだろうと思ったのは、まちがいでしたとき。
おしまい